

同窓会会報

熊本大学医学部保健学科 第10号



熊本大学医学部保健学科第11回同窓会総会後記念写真（平成26年7月5日）

目次

- 同窓会会長あいさつ……………●
- 保健学教育部長あいさつ……………●
- 卒業生の寄稿……………●
- 在校生の寄稿……………●
- 職場紹介……………●
- 同窓会総会議事録……………●
- 特別講演……………●
- 保健学科親子記事……………●
- 熊本大学卒業生表彰……………●
- 国家試験合格状況……………●
- 平成25年度卒業生の進路状況……………●
- 保健学科教員紹介……………●
- 同窓会会則・細則……………●
- 平成26年度熊本大学医学部保健学科同窓会役員……………●

**平成27年度保健学科同窓会総会、
特別講演、懇親会のご案内**

日時：平成27年7月4日（土）
14時00分より
場所：熊本大学医学部保健学科

住所変更の場合は、下記にご連絡ください。

TEL：096-382-1177（小野高速印刷）

メール：kumamoto@ohp.co.jp（小野高速印刷）

皆様のための同窓会へ

保健学科同窓会会長 **橋田昌弘** (熊本大学医学部附属病院 医療技術部)

日頃より、同窓会活動へご支援、ご協力を賜り感謝申し上げます。

平成26年7月5日に第11回総会・特別講演会・懇親会を開催し、総会へ42人(内:学生10人)、懇親会へ31人(内:学生9人)の参加を頂き心から感謝申し上げます。ただし、第10回に比べ参加者が減り、少し寂しい思いはいなめませんでした。今回の特別講演は、熊本大学パルスパワー科学研究所所長 秋山秀典教授に「一瞬で世界を変える パルスパワー ——世界最先端の研究成果を、熊本大学から世界へ発信——」と題して講演をお願いしました。パルスパワーは産業界だけでなく、生物系や医療にも応用され、今後の大きな発展が期待できます。また、パルスパワーの研究は、熊本大学が世界の最先端で世界をリードしていることも判り、熊本大学の卒業生として非常に誇りに思います。卒業すると熊本大学の現状がなかなか判りませんので、今後、同窓会では、積極的に熊本大学の現況を皆様に発信したいと思います。

平成26年4月19日に、「九州連合同窓会」が発足し、ホテル日航にて、発足総会、記念講演、懇親会が開催されました。熊本大学には学部(学科)毎に同窓会がありますが、その連携組織として同窓会連合会、連合体の地方組織として東京連合同窓会と関西連合同窓会があります。以前より、熊本を中心とした九州の地方組織の必要性が言われていましたが、それが実現し九州連合同窓会が発足しました。発足総会、懇親会には、保健学科同窓生8名も参加して頂き、他の学部にも負けぬ参加者数でした。(参加者数を競わなくてもいいのですが、つつい……)今後、隔年で熊本とそれ以外の県で開催することが決まり、第2回は平成27年秋に福岡で開催します。熊本での同窓会に参加しにくい九州の他県の多くの皆様が、九州連合同窓会を利用して交流の場を作って頂けると幸いです。

同窓会活動の目的の一つに「在校生への支援」がありますが、実質はなかなか具体的な方法がない状況でした。そこで、今年度から新しい試みとして「同窓会表彰」として、同窓会が在校生を表彰する制度を創設しました。具体的には、卒業時の4年生を対象とし、表彰内容は成績ではなく、クラスや友達のために頑張った学生さんとししました。成績に関しては大学が表彰しますので、同窓会としては違ったアプローチを考え、人のため頑張ったことにターゲットを当てました。これで十分とは思いませんが、今後、少しでも在校生の皆さんへの支援策を検討したいと思っています。

昨年のご挨拶にも書きましたが、まずは、「人が集まる」魅力ある同窓会を目指したいと思います。今後、役員一同、試行錯誤しながら努力する所存です。逆に、同窓生の皆様へお願いです。年1回の同窓会へ参加を切にお願いいたします。多くの皆様が参加して頂くことで、相乗効果が発揮され、同窓会も活発化します。

平成27年7月4日の第12回総会・講演会・懇親会にて、皆様にお会いできることを楽しみにしています。

今後とも、同窓会をよろしくご協力申し上げます。

ごあいさつと「ミッションの再定義」

大学院保健学教育部長・保健学科長 **吉永一也** 熊本大学大学院生命科学研究所 先端生命医療科学部門 医療技術科学講座
熊本大学医学部保健学科 検査技術科学専攻

同窓会の皆様におかれましては、ますますご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。

私は、本年4月1日付で保健学系の部局長を仰せつかりました。教職員約70名全員と協力しつつ、アカデミックな教育研究組織としてさらに深化・発展するために、微力ではございますが部局運営に努めてまいり所存です。

ので、どうぞよろしくお願いいたします。

さて、大学院保健学教育部では、今年3月に念願の博士後期課程修了者が初めて誕生し、看護系分野から看護学博士1人、放射系分野と検査系分野から保健学博士1人ずつ、計3人の博士号取得者を輩出しました。今後一層の活躍が期待されます。

また今年4月には、文部科学省から国立大学保健系分野（看護学・医療技術学）の「ミッションの再定義」結果が公表されました。熊本大学公式Webサイトにも掲載され、各分野（学部）の強み・特色・社会的役割（ミッション）が整理されています。今後も本部局の有する強みや特色を伸ばし、社会的役割を一層果たしていくため、その機能強化に取り組んでいかねばなりません。以下に「ミッションの再定義」を踏まえて記した本学科・教育部Webページ〈部局長メッセージ〉の一部を転載します。

学部教育においては、附属病院を持つ総合大学である強みを活かし、高い実践能力を備えたメディカルスタッフを養成します。さらに、看護学・放射線技術科学・検査技術科学の3専攻を有する強みを活かし、各職種間の相互理解やチーム医療に関する理解を深める教育を推進します。大学院教育においては、先端医療で必要な高度な専門知識と国際的視野を持ち、次世代のリーダーとなる高度医療専門職者・教育者・研究者を養成します。看護学分野では、専門看護師（精神看護、在宅看護、がん看護）を養成するとともに、附属病院や地域と連携して超高齢化に対応できる看護ケアモデルの開発等を推進し、社会的課題の解決に向けて貢献します。医用放射線科学および検査技術科学分野では、学内外の医・薬・工学分野との連携による診断や検査、治療に関する共同研究を積極的に推進し、医療技術の向上に寄与します。

最後になりましたが、保健学科同窓会のさらなるご発展と、会員皆様のみまますのご活躍をお祈り申し上げます。今後とも引き続き、保健学科・保健学教育部発展のために、温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。



卒業生の寄稿

職業旅人、趣味ナース

大阪市立大学付属病院 看護師

西村 賢志 (保健学科看護学専攻 1期生)

はじめまして。タイトルを見てこの人は何者なんだろうと思う人もいるかもしれません。私は熊大看護学専攻を卒業して福岡の総合病院に就職しました。その病院において病院スタッフや患者様から看護師、社会人として大切なものを学ばさせて頂きました。数年働いた後、私は子供の頃からの夢であった海外で生活するためにオーストラリアにワーキングホリデーとして行きました。その後アジアの国々を所謂バックパッカーとして旅しました。

普通に病院で働いては出会えないような人達や、全く異なる文化を持った異国のの人達と知り合えたことで私の価値観が大きく変わったと思います。現在、

私は関西の大学病院で看護師として働く傍ら、時間を見つけては海外を旅したり、四国へお遍路巡礼を行っていたりします。最近私が思うことは何でもいいから興味を持つこと、もし興味を持てる何かがあれば迷わずやってみることが大事だと思います。その気持ちは、これから卒業され様々な場所で活躍される在学生にも是非伝えたいことです。

また、旅の中で出会った人達との縁もありNPO法人のCONGO BRIDGEという団体で活動もさせて頂いています。その活動は発展途上であり、メンバーも資金も不足している状態ですが、アフリカのコンゴという国の看護師の現状を変えようと、現地の政府と協力して立ち上がった団体で、今後の活動に力を注いで行きたいと考えています。

色々書きましたが、看護師をしていたからこれまでの経験をすることができたと思います。これからも「職

業旅人、趣味ナース」を体現できるように活動していると思います。



済生会熊本病院 中央放射線部

氏原 晋太郎 (保健学科放射線技術科学専攻 2期生)

私は熊本大学を卒業後、済生会熊本病院に放射線技師として勤務しています。そもそも私が放射線技師という職業を知るきっかけとなったのは、高校生のときでした。眼の奥の痛みを覚え、なかなかおさまらなかったもので、近くの病院を受診しCT検査を受けました。そのとき、検査していただいた技師の方が、不安だった私に対してとても優しく丁寧に接してくれたことや、CT装置を巧みに操作している姿を格好良く思ったこと、CT画像から副鼻腔炎だと診断され、このように病気を見つけられるのだと感心したことを今でも覚えています。

現在、私は放射線技師4年目になります。仕事を始めて思い知らされたことが、放射線技師として検査を行う業務以外にもたくさんやることがあるということです。業務の効率の良い運用を考えることや、医療安全についての委員会での活動や、勉強会や研究会への参加や、学会発表のための研究活動などなど。日々、忙しい中でたくさんの仕事をこなしていると、つい自分の目標とした放射線技師の理想像を忘れがちになってしまいます。そのため、ときには自分の職業を目指すことになったきっかけや、夢みた学生時代を思い起こすことも必要なのかもしれません。そうすることで、初心を忘れずに、自分を見つめ直すことができるのではないのでしょうか。今後もあの時の体験を忘れず、質の高い検査を提供し、満足度の高い接遇ができる技師を目指して、励んでいきます。

いかに感染症診療に貢献するか



池田 光泰 (保健学科検査技術科学専攻 2期生)

私は熊本大学医学部保健学科検査技術科学専攻を卒業し、JA広島総合病院に勤務して6年目になります。初年度からずっと微生物検査に携わり、一通りの業務はこなせるようになったと思います。当初は微生物が好きだったわけではありませんでしたが、見る見るうちにはまっていき、微生物と会話する日々を送っています。また私は3年前から広島大学大学院に進学し、夜間に研究を行っています。微生物検査はある程度機械化は進んだものの、検体を機械にセットすれば自動的に菌種が同定されるわけではありません。また、すべての菌種をカバーするような培地や診断キットは存在しないし、鏡検でもすべての微生物が見えるわけでもありません。微生物検査に求められるものは臨床に役立つ良質な情報を迅速かつ正確に提供することであり、そのためには患者の臨床背景や臨床症状を十分に把握していなければなりません。例えば血液培養が陽性となった場合、当院は24時間対応しているので時間外であれば担当の人が呼び出され、その場ですぐにグラム染色を行い、菌種を推定して主治医に直接電話連絡します。その時に電子カルテで感染部位や使用抗菌薬等を調べ、患者の状態を把握しておくことで感染症の診断と治療に直結する情報を提供することができます。微生物検査は知識・経験・匠の技が必要であり、そのための努力を怠らず常に研鑽し続けなければならないので、非常にやりがいを感じる分野だと思います。



在校生の寄稿

「看護」について考えた4年間

看護学専攻4年 安部 美岐

大学生活も残り半年を迎えました。私が夢見たキャンパスライフとは程遠くなるようなレポートや課題の量に授業数、毎日夜通し勉強したテスト、患者さんと向き合い看護を学ぶことに全力になった実習といった4年間でした。

特に、3年時の約8か月の実習では自分の知識不足と思考の浅さを痛感することが多々ありました。術後の患者さんを受け持った際、転倒転落を予防するために日常生活動作に対して何でも介助してしまったことがあり、看護師の方に「やってあげられることは患者さんだけでなく看護師も介入したという満足感を得られるけれど、患者さんが自分でやれるよう支援することが大事なことを忘れないでね。」と助言を頂いたことがあります。その言葉を胸に、その後の実習では患者さんのリスクをアセスメントしながら、工夫方法を提示してご自身でやって頂くといった見守りも看護において重要であることを実感することができました。

これから看護師として勤務しますが、4年間で体感したことや、目の前の患者さんは「誰かの大切な方」であるということや、忘れずに看護を学んでいきたいです。熊大で多くの人に会い、乗り越えてきた4年間は大変なこともありましたが、充実した日々を送ることが出来ました。これからも実りのある自主性を大切にしたい看護師人生にしていきたいと思っています。

病院実習を終えて

放射線技術学科専攻4年 塩村 彩華

10週間の病院実習を経て、自分の中に理想の診療放射線技師像を描くことができました。今まではぼんやりとした診療放射線技師というイメージはあったものの、具体的にどのような業務を行うのかということは分かっていませんでした。実習に取り組む中で技師の方々が働かれている様子を見て少しずつ技師の仕事について分かってきました。

病院では救急外来でのポータブル撮影やマンモグラフィ検査など初めて目にするものもあり、非常に多くの新しい知識を得ることができました。また、授業で学んできたことが実際の検査にはどう生かされているのかを知り、今までに自分が持っていた知識を整理することができました。

実際に患者さんに接してみても、また、技師の方々の患者さんへの接し方を見て、いかに様々な人がいるかということが分かりました。一人ひとりの患者さんに対して、年齢やそれぞれの状況に合わせた接し方をしなければいけないということを学びました。

今回の実習を通して、安心安全な医療提供ができる技師になるというはっきりとした目標を持つことができました。丁寧に指導して下さった技師の方々に始め病院スタッフの方々への感謝を忘れず、実習で得た知識と経験をしっかりと自分のものにして近い将来に技師として働く際に活かしていきたいと思っています。

臨地実習を終えて

検査技術科学専攻4年 村岸 良紀

4年間の大学生活も残り少なくなり、これまで様々なことを学んできました。中でも先日、約2カ月間の臨地実習が行われ、臨床検査技師として働くために必要な多くのことを学び、感じることができました。

臨地実習は想像していた以上に大変で、実習のレポートや予習復習と毎日必死でしたが、現場の技師の方々がお忙しい中でも丁寧に教えていただき、とても充実していた2カ月間だったと思います。そして実習を通して今まで曖昧にしか知らなかった検査技師の業務について見たり、一部体験したりすることによって検査技師についてより知ることができ、働くことへの意欲を高めることができました。検査技師の業務には、患者様から採取した検体を測定することや、生理検査などのように、実際に患者様に接して、実施する検査があります。その検査データは医師の診断や治療に大きく関わっていくものなので、一つ一つの検査を正確にかつ迅速に実施する必要があります。もし適切な結果でなければ、患者様へ適切な医療が提供されないため、検査に関する正しい知識を身につけなければいけませんし、責任を持って業務を行っていかねばならないと感じました。

今回の病院実習を通して、自分は将来どういう技師になりたいのかという目標を持つことができました。その目標を達成するためにも残り少ない学生生活の中でできることを精一杯やって先輩方に少しでも近づけるように頑張っていきたいと思っています。

博士後期課程で学んだ3年間

熊本大学大学院保健学教育部博士後期課程3年 田中 政行

私は、2012年4月に熊本大学大学院博士後期課程へ進学しました。博士後期課程へ進学する方法は、社会人から博士後期課程へ進学を行う方法と博士前期課程を修了し引き続き博士後期課程へ進学する方法があります。例年、博士後期課程への進学は社会人から進学する方が多い状況です。私の場合、博士前期課程を2012年3月に修了し、引き続き博士後期課程へと進学しました。博士後期課程では、社会人学生の方々と同じ夜間に行われる授業を受講し、単位を取得する必要があります。授業では、社会人学生の方々と意見を交わす機会があり、その中で臨床時にどのような点に意識しているのかを知ることができてもよい機会となりました。

学生生活では、学部卒業時に診療放射線技師免許を取得しているため、大学院の授業がない時には診療放射線技師のアルバイトをすることができます。アルバイトとして臨床の場で働くことができ、学部生時代に体験した病院実習以上に技師としてさまざまなことを学ぶことができました。私自身、さまざまな病院でアルバイトをさせていただく機会があり、撮影時の基礎や患者様への対応といった医療人としての基礎を再確認することができました。

今まで学んだことをこれからは生かせるように、卒業まで残り約半年となりましたが、今まで以上にがんばっていきたくと思っています。

職場紹介

大阪医科大学附属病院

平野 幸治（保健学科看護学専攻 6期生）

大阪医科大学附属病院は920床を有し、「社会のニーズにこたえる安全で質の高い医療を皆様に提供するとともに良識のある人間性豊かな医療人を育成します」の理念のもと、特定機能病院、災害拠点病院、エイズ拠点病院、地域がん診療連携拠点病院、大阪府肝疾患診療連携拠点病院、大阪府地域周産期母子医療センターとして機能している病院です。病院へのアクセスも、阪急高槻市駅から徒歩圏内と良いのが特徴です。手術件数は年間1万件を超えており、現在手術室、ICU、外科病棟などを増床するため新棟を建築中です。

看護部としては、パートナーシップを導入することで、スムーズな業務が行えるとともに、プリセプター制とエルダー制を導入して新人も働きやすい環境が整えられています。私が所属するICUは、8床を有しており、主に心臓血管外科の術後管理を行っていますが、全ての科にも幅広く対応しており、病棟での毎日が勉強の連続です。

熊本市民病院 放射線技術室

小川 俊一（医学部附属診療放射線技師学校 13期生）

熊本市民病院は、「健康を願う市民を支援するため市民と協力し、仁愛と奉仕の心をこめて最善の医療を行います」の理念のもと、患者さん中心の医療を心がけ、日々診療を行っています。放射線技術室（診療放射線技師 職員16名、臨時職員2名）は医療技術部に属し、薬剤課、検査技術室、リハビリテーション技術室、栄養管理技術室、臨床工学技術室とともに、医療技術部門の一翼を担っています。

本院の特徴として、周産期医療、がん治療、救急医療、難病治療、感染症病床（第1種病床2床・2種10床）が挙げられます。

また国際医学交流では、ドイツ・ハイデルベルグ市

へ医師、看護師、医療技術員の派遣及び受け入れを行い、医療技術や医療知識の向上を図っております。

現在の建物は古く（昭和54年築）、建て替えが決定しています。平成27年度着工、平成33年度のグランドオープンに向け準備中です。

JA広島総合病院

池田 光泰（保健学科検査技術科学専攻 2期生）

JA広島総合病院の基本理念は「私たちは人間愛に基づいた医療を実践し、地域社会に貢献します」であり、広島県西部地区で最大の急性期総合医療機関です。臨床検査技師は40名ほどで、生理機能・血液一般・免疫化学・細菌輸血・病理の5分野から構成されています。当科は早くから業務の効率化を図るために搬送ラインを導入し、24時間毎日30～60分で検査結果が出せるように日々業務を行っています。



第11回熊本大学医学部保健学科同窓会総会議事録

日 時 平成26年7月5日（土） 14：00～17：00

場 所 熊本大学医学部保健学科E506（5F）

出席者数 31名

議 長 梶中智恵子先生

（熊本大学医学部保健学科看護学専攻）

<総会式次第>

開会の辞

同窓会会長挨拶

保健学教育部長挨拶

議長選出

議事

1. 平成25年度事業及び会計に関する報告

- ① 事業報告
- ② 決算報告
- ③ 監査報告

2. 平成26年度事業計画（案）

3. 平成26年度予算（案）

4. その他

閉会の辞

【議事要旨】

14時、春田副会長より開会が告げられ第11回同窓会総会が開会された。

最初に、橋田昌弘会長が会を代表して挨拶を行い、続いて吉永一也熊本大学大学院保健学教育部長のご挨拶が行われた。その後、梶中智恵子先生（熊本大学医学部保健学科看護学専攻）が総会議長に選出され、議事に従い4項目の議案の審議が行われた。

1. 平成25年度事業報告及び会計に関する報告

橋田昌弘会長より保健学科のオープンキャンパスへの支援や同窓会会報第9号発行、第10回同窓会連合会への参加等、1年間の事業が報告された。

松本会計幹事より25年度の会計について決算状況が報告された。

その後、熊谷監事より平成26年4月8日に行った会計の監査結果について、適正であったとの報告が行われた。

質疑応答では熊本大学医学部附属病院 白川様より平成25年度において、新生生の同窓会費の納入率が低いことに関して質問があり、松本会計幹事より在学中に支払いを頂くように請求を行っていく旨の回答が行われた。

その後賛成多数で平成25年度事業報告、決算報告並びに会計監査報告は賛成多数で承認された。

2. 平成26年度事業計画（案）について

橋田昌弘会長より、平成26年度事業計画（案）について説明があり、昨年の事業に加えて、九州連合会への参加、同窓会表彰が今年度から行われる旨の説明があった。今後も同窓会に何をしてほしいかの意見を皆さんから出してほしい。そしてそれを次の事業計画に生かして行きたいとの会長の発言があった。

3. 平成26年度予算（案）について

平成26年度予算（案）について松本会計幹事より説明があった。

質疑応答では熊本大学医学部附属病院 白川様より繰越金の利子に関して質問があり、松本会計幹事より今後、利子を事前に計算を行い、予算案へ含めるように検討する胸の回答があった。その後、採決を行い、参加者の賛成多数で平成26年度事業報告（案）、平成26年度会計予算（案）は承認された。

以上で、議案審議が全て終了し、議長は、降壇した。

最後に、春田副会長より閉会の挨拶があり、14時32分に終了した。

次に各専攻の紹介において、看護学専攻 梶中先生、放射線技術科学専攻 竹永さん、検査技術学専攻 山中さんから各専攻紹介が行われた。

最後に特別講演として熊本大学パルスパワー研究所 所長 秋山秀典先生より「一瞬で 世界を変える パルスパワー ～世界最先端の研究成果を、熊本大学から世界へ発信～」と題した講演会を行い、その後、懇親会が行われた。



特別講演

「一瞬で世界を変える、パルスパワー」
～世界最先端の研究成果を熊本大学から世界へ発信～

秋山 秀典 教授 (熊本大学パルスパワー科学研究所 所長)



パルスパワーって何だろう?とても興味を引くテーマでした。平成25年4月に熊本大学にパルスパワー研究所が設立されました。秋山先生は、衝撃エネルギーに関する世界レベルの当研究機関の所長として現在ご活躍中です。

パルスパワーは、電力や重力など蓄えたエネルギーを圧縮し一瞬で放出することで得られる超高出力レー

ザーや高圧力といった力の総称であるとのことで、研究内容について動画を交え、成果や今後の展望についてご紹介いただきました。ガン治療をはじめとした医療技術の高度化や自然環境の改善、電子工学の発展につながる研究を進められており、様々な産業界におけるパルスパワーの可能性の講演をしていただきました。

私達の身の回りでは、パソコンや携帯電話などで使われている集積回路を加工するために不可欠な強力紫外線光源にもパルスパワーは用いられているそうです。もし機会があれば、ぜひ一度実験風景を見てみたいと思う内容でした。

懇親会風景



保健学科親子記事

～親子で熊大生～

親子(親)

【1】氏名 吉野 清美

【2】出身学部専攻 卒業年度、現在のご職業のご記入をお願いします。

教育学部 特別教科(看護)教員養成課程 専攻
昭和61年度卒業

現在の職業:熊本保健科学大学教員

【3】Q1 学生生活の思い出を教えてください

黒髪祭でお好み焼きやクレープを作ったこと、阿蘇から熊大まで40km歩き通した「遠歩」、サークル活動で指にタコを作りながら琴の練習をしたこと、ソフトボール大会で工学部男子のチームと対戦してボロ負けしたこと...
また、病院実習、教育実習ではいろんな人と出会って、たくさんのことを教えていただきました。徹夜でまとめたケーススタディ、卒業論文など苦しいこともいっぱいありましたが、今思えば、とても充実した4年間でした。

【4】Q2 現在、どのようなお仕事をされていますか

基礎看護学領域で、清潔や食事、排泄、移動などの日常生活の援助技術や、注射や採血、酸素吸入などの診断・治療における技術を教えています。

1,2年生の基礎看護実習では、実習病院で学生と共に患者さんの援助を一緒に考えて実践しています。学生が初めて看護に触れ、基礎を学ぶ大事な時間を共に過ごしますので、私も、いつも初心に帰るつもりで学生たちと接することをこころがけていきたいです。

【5】Q3 子どもさんにどのような職業人になってほしいですか

しっかりと知識を身につけたうえで、患者さんのニードを捉えて、患者さんに合わせた看護を実践してほしいと思います。

いろんなことに興味を持ち、たくさんの体験をして感性を磨いてほしいです。

私も今年から、大学院で学ぶことになり「親子で熊大生」現在進行中です。

娘と切磋琢磨しながらお互いに頑張っていきたいです。

熊本大学卒業生表彰

平成26年度国立大学法人熊本大学卒業生表彰の表彰式が、11月1日の第9回ホームカミングデーに開催されます。この会報が発刊される頃かと思えます。この表彰は、熊本大学の発展又は社会からの理解促進につながる顕著な功績のあった本学卒業生に対し、学長が行うもので、今回は第3回になります。

本年度、保健学科同窓会より以下の方々が表彰されました。

- 高宗 和子（熊本大学医学部附属看護学校 昭和42年卒業）
 宮里 邦子（熊本大学医学部附属看護学校 昭和44年卒業）
 守部 伸幸（熊本大学医学部附属診療エックス線技師学校 昭和●年卒業）
 戸坂 雅一（熊本大学医学部附属衛生検査技師学校 昭和42年卒業）



第2回卒業生表彰者

昨年の第2回の卒業生表彰は、前回の会報でもお知らせいたしましたが、看護専攻から田中シゲ子様、嶋田ラク子様、田中紀美子、放射線専攻からは東田善治様、検査専攻からは、武藤勝様が表彰を受けられました。表彰時の写真を掲載しています。

国家試験合格状況

平成26年4月

試験種類	受験年度	本学新卒者			全国（含既卒者）		
		受験者数（人）	合格者数（人）	合格率（%）	受験者数（人）	合格者数（人）	合格率（%） （うち新卒者）
看護師	21	72	72	100.0	52,883	47,340	89.5
	22	71	70	98.6	54,138	49,688	91.8
	23	70	69	98.6	53,702	48,400	90.1
	24	67	67	100.0	56,530	50,224	88.8
	25	68	68	100.0	58,891	52,900	89.8(95.2)
保健師	21	84	81	96.4	13,048	11,295	86.6
	22	80	75	93.8	14,819	12,792	86.3
	23	78	74	94.9	15,758	13,555	86.0
	24	72	71	98.6	16,420	15,764	96.0
	25	73	73	100.0	17,308	14,970	86.5(88.8)
助産師	21	16	9	56.3	1,901	1,579	83.1
	22	14	14	100.0	2,410	2,342	97.2
	23	14	13	92.9	2,132	2,026	95.0
	24	13	13	100.0	2,113	2,072	98.1
	25	12	12	100.0	2,079	2,015	96.9(97.6)
診療放射線技師	21	39	39	100.0	2,460	1,969	80.0
	22	36	35	97.2	2,409	1,712	71.1
	23	39	38	97.4	2,528	2,109	83.4
	24	35	31	88.6	2,426	1,615	66.6
	25	35	34	97.1	2,907	2,224	76.5(89.9)
臨床検査技師	21	33	32	97.0	4,060	2,753	67.8
	22	30	30	100.0	3,959	2,652	67.0
	23	37	35	94.6	4,012	3,027	75.4
	24	39	34	87.2	4,097	3,162	77.2
	25	41	40	97.6	4,148	3,368	81.2(94.3)

親子（子）

【1】氏名 吉野 春菜

【2】所属学部専攻と学年のご記入をお願いします。

医学部保健学科 看護学専攻 3年生

【3】Q1 大学生活について教えてください

勉強は大変だと感じることはあります。そのような中でも部会やサークルで他学部や他大学の人たちと研修の企画をして、いろいろな人の価値観にふれ、視野を広げることができ、楽しみながら、学びの多い毎日を過ごしています。

【4】Q2 この職業を目指したきっかけを教えてください

中学生のころから、医療に興味がありました。病気を抱

えている人を治療によって元気にしたいと思い、医師を目指したこともありましたが、しかし自分は患者さんの心を元気にしたい、明るくしたいと思うようになり、看護師を目指すようになりました。

【5】Q3 親の尊敬できるところを教えてください

自分の目指す職業の先輩であり、とても頼りになります。看護の教育者になるために、看護教育の授業を選択していますが、模擬授業を実施するときはアドバイスをしてもらいました。母が家事や仕事をしながら、大学院で勉強をするという行動力も尊敬できますが、常に人として自分自身を高めていくところや、仕事に関わる学生のためにもっと学習しようという向上心をもっているところは尊敬します。

平成25年度卒業生の進路状況等について

H●●●

看護学専攻（卒業生73名）		
(就職)		
熊本大学医学部附属病院	熊本県	22
熊本赤十字病院	熊本県	2
福田病院	熊本県	1
済生会熊本病院	熊本県	4
熊本県職員	熊本県	1
日本赤十字社熊本健康管理センター	熊本県	1
南阿蘇村役場	熊本県	1
済生会熊本病院	熊本県	1
九州大学病院	福岡県	9
福岡山王病院	福岡県	1
小倉記念病院	福岡県	1
聖マリア病院	福岡県	1
国立病院機構九州医療センター	福岡県	2
国立病院機構長崎医療センター	長崎県	1
大分大学医学部附属病院	大分県	1
大分岡病院	大分県	1
大分市職員	大分県	1
日向市役所	宮崎県	1
鹿児島大学病院	鹿児島県	2
鹿児島市立病院	鹿児島県	2
下関市役所	山口県	1
島根大学医学部附属病院	島根県	1
大阪大学医学部附属病院	大阪府	1
東京大学医学部附属病院	東京都	2
葛飾赤十字産院	東京都	1
三井記念病院	東京都	2
愛育病院	東京都	1
日本赤十字社医療センター	東京都	1
虎の門病院	東京都	1
浦田総合病院	東京都	1
昭和大学病院	東京都	1
就職小計		69
(進学)		
熊本大学養護教諭特別別科	熊本県	1
九州大学大学院	福岡県	1
進学小計		2

放射線技術科学専攻（卒業生37名）		
(就職)		
熊本中央病院	熊本県	2
熊本総合病院	熊本県	1
高野病院	熊本県	1
人吉総合病院	熊本県	1
くわみず病院	熊本県	1
福岡大学病院	福岡県	2
新古賀病院	福岡県	1
博愛会病院	福岡県	1
国立病院機構九州ブロック	福岡県	2
J R九州病院	福岡県	1
浜の町病院	福岡県	1
久留米大学病院	福岡県	1
長崎市民病院	長崎県	1
諫早総合病院	佐賀県	1
医療センター好生会	佐賀県	1
成人病予防センター	佐賀県	1
大分大学医学部附属病院	大分県	1
宮崎大学医学部附属病院	宮崎県	1
宮崎病院	宮崎県	1
鹿児島県厚生連病院	鹿児島県	1
広島市立病院機構	広島県	1
大阪大学医学部附属病院	大阪府	1
就職小計		25
(進学)		
熊本大学大学院保健学教育部	熊本県	8
久留米大学大学院	福岡県	1
進学小計		9

検査技術科学専攻（卒業生44名）		
(就職)		
熊本大学医学部附属病院	熊本県	1
済生会熊本病院	熊本県	3
熊本中央病院	熊本県	1
熊本セントラル病院	熊本県	1
慈恵病院	熊本県	1
天草地域医療センター	熊本県	1
高木病院	福岡県	5
国立病院機構九州ブロック	福岡県	1
聖マリア病院	福岡県	1
古賀病院グループ	福岡県	1
九州大学病院	福岡県	1
北九州市立病院	福岡県	1
八女総合病院	福岡県	1
長崎大学病院	長崎県	5
宮崎大学医学部附属病院	宮崎県	1
都城健康サービスセンター	宮崎県	1
J A 鹿児島厚生連病院	鹿児島県	1
今村病院分院	鹿児島県	1
済生会川内病院	鹿児島県	1
今給黎総合病院	鹿児島県	1
鹿児島県立病院	鹿児島県	1
中四国ブロック血液センター	広島県	1
三菱化学メディエンス株式会社	東京都	2
就職小計		34
(進学)		
熊本大学大学院保健学教育部	熊本県	6
熊本大学大学院医学教育部	熊本県	3
進学小計		9



保健学科教員紹介

(平成26年7月現在, 五十音順)

◆看護学専攻

【基礎看護学講座】

教授：前田ひとみ
 講師：木子莉瑛 永田まなみ
 助教：有松 操 南家貴美代

【看護教育学講座】

教授：花田妙子
 助教：福山美季

【臨床看護学講座】

教授：宇佐美しおり 河野宏明 國府浩子
 准教授：柊中智恵子 谷口まり子 中尾富士子
 助教：樋口有紀 福川摩耶

【母子看護学講座】

教授：田代浩徳
 准教授：坂梨京子
 講師：寺岡祥子
 助教：生田まちよ 島田久仁子 吉田佳代

【地域看護学講座】

教授：上田公代 西阪和子 東 清巳
 准教授：日浦瑞枝
 助教：松本佳代 松本千晴

◆放射線技術科学専攻

【医用理工学講座】

教授：白石順二 富吉勝美 船間芳憲
 准教授：内山良一 米田哲也
 助教：大野 剛 辻田直子

【医用画像学講座】

教授：荒木不次男 伊藤茂樹 富口静二
 佛坂博正 村上龍次
 准教授：島村正道

◆検査技術科学専攻

【構造機能解析学講座】

教授：大林光念 羽山富雄 柳沼裕二
 吉永一也
 講師：伊藤雅浩
 助教：橋本弘司

【生体情報解析学講座】

教授：乾 誠治 大坪和明 大森久光
 奥宮敏可 三森龍之
 准教授：畑 裕之
 助教：田崎雅義 森 信子

熊本大学医学部保健学科同窓会会則・細則

熊本大学医学部保健学科同窓会会則

第1章 総則

- 第1条 本会は、熊本大学医学部保健学科同窓会（以下「本会」という。）と称する。
- 第2条 本会は、事務局を熊本市九品寺4丁目24番1号熊本大学医学部保健学科に置く。
- 第3条 本会は、会員相互の親睦を図るとともに、母校との連携を保ち、その教育の支援と発展に寄与することを目的とする。
- 第4条 本会は、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。
- 一 会員相互の親睦及び研修に必要な事項
 - 二 母校の教育の支援・発展に関する事項
 - 三 その他必要と認められる事項
- 第5条 本会は、必要に応じて各専攻等を単位とする分科会を置くことができる。
- 2 分科会の設置及び運営に関する事項は、理事会の承認を経て各分科会が定める。

第2章 会員

- 第6条 本会の会員は次のとおりとする。
- 一 正会員
 - イ 熊本大学医学部附属看護学校、熊本大学医学部附属助産婦学校、熊本大学医学部附属エックス線技師学校、熊本大学医学部附属診療放射線技師学校、熊本大学医学部附属衛生検査技師学校、熊本大学医学部附属臨床検査技師学校を卒業又は在籍した者
 - ロ 熊本大学医療技術短期大学部を卒業又は在籍した者、熊本大学医療技術短期大学部専攻科助産学特別専攻を修了又は在籍した者、熊本大学教育学部特別教科（看護）教員養成課程を卒業又は在籍した者
 - ハ 熊本大学医学部保健学科（以下「本学科」という）を卒業又は在籍した者並びに在学生
 - 二 熊本大学大学院保健学教育部（以下「大学院」という）を修了又は在籍した者および在学生
 - 二 特別会員
 - イ 本学科教員
 - ロ 本学科及び前項の学校の元教員
 - ハ 前項以外の者で理事会の承認を得た者
- 第7条 会員が死亡または会員たる資格を喪失したときは、退会したものとみなす。
- 第8条 会員が、本会の名誉を傷つけ、または本会の趣旨に反する行為をしたときは、総会において出席会員の4分の3以上の議決により、これを除名することができる。
- 第9条 正会員は、会費（終身）として1万円を本学科入学および大学院入学時に納入するものとする。ただし、退会または除名された会員が既に納入した会費、その他の拠出金は返還しないものとする。

第3章 役員等

- 第10条 本会に次の役員を置く。
- 一 会長 1名
 - 二 副会長 2名
 - 三 理事 12名
（看護6名、衛生3名、放射3名）とする。
 - 四 幹事 7名
 - 五 会計 2名
 - 六 監事 2名
- 第11条 役員は次の職務を行う。
- 一 会長は、本会を代表し、会務を総括する。
 - 二 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときはその職務を代行する。
 - 三 理事は、会員の代表として本会の運営に当たる。
 - 四 幹事は、本会の実務に当たる。
 - 五 会計は、本会の会計事務に当たる。
 - 六 監事は、本会の会計を監査し、総会に報告する。
- 第12条 役員は、次により選出又は委嘱する。
- 一 会長は、総会において正会員の中から選出する。
 - 二 副会長は、会長が正会員の中から推薦し委嘱する。
 - 三 理事は、正会員の中から専攻毎に選出し会長が委嘱する。
 - 四 幹事は、会員の中から会長が委嘱する。
 - 五 会計は、正会員の中から会長が委嘱する。
 - 六 監事は、理事会において正会員の中から推薦し、会長が委嘱する。
- 第13条 役員は、任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。
- 2 補欠による役員は、前任者の残任期間とする。
 - 3 役員は、任期が満了しても後任者が就任するまではその職務を行うものとする。

第4章 名誉会長及び顧問

- 第14条 本会に名誉会長を置き、保健学教育部長を推戴する。
- 第15条 本会に顧問を置くことができる。顧問は、総会の議を経て会長が委嘱する。
- 2 顧問は、重要事項について会長の相談に応ずる。

第5章 会議

- 第16条 総会は、原則として毎年1回開催し、次の事項を審議決定する。
- 一 事業及び決算報告
 - 二 事業計画及び予算
 - 三 会則の制定及び改廃
 - 四 役員を選出
 - 五 顧問の推挙
 - 六 その他の必要と認める事項
- 2 会長は、総会を召集し、理事会の議を経て前項に定める事項を提案する。
- 第17条 会長は必要と認めたとき、臨時総会を開催する

- ことができる。
- 第18条 総会の議長は、出席会員の中から選出する。
- 第19条 総会は、日時、場所、付議すべき事項等を示して召集する。
- 第20条 総会に出席できない会員は、あらかじめ文書をもって意見を表示することができる。
- 第21条 総会の議事は出席会員の過半数で決し、可否同数のときは議長がこれを決する。
- 第22条 総会は、議事録を作成し、これを保存する。
- 第23条 理事会は、会長、副会長、理事及び幹事によって組織する。
- 第24条 理事会は、会長が必要と認めるとき、又は理事の5分の2以上の要求があったときに開催する。
- 第25条 理事会は、会長が召集し、議長は会長がこれにあたる。
- 第26条 理事会の議事は、出席者の過半数で決する。
- 第27条 理事会は必要に応じて委員会を置くことができる。

第6章 会計

- 第28条 本会の経理は、会費及び寄付金、その他の収入を持って充てる。
- 第29条 本会の会計年度は、毎年4月1日から始まり翌年3月31日に終わる。
- 附 則 この会則は、平成16年4月1日から施行する。
- 附 則 この改正は、平成19年4月1日から施行する。
- 附 則 この改正は、平成20年4月1日から施行する。

熊本大学医学部保健学科同窓会会計細則

- 同窓会費は1万円とし、本学科入学および大学院入学時に一括納入することを原則とする。
 - 本学科同窓会費は、同窓会運営費として使用する。運営費以外に使用する場合は、同窓会理事会の承認を必要とする。
 - 旅費に関しては、旅費規程に則って支給する。
 - 金融機関への振込手数料は、会員の負担とする。
 - 金融機関に同窓会の口座を設け、会計が通帳・印鑑を管理する。
 - 同窓会費の徴収は、入学時に行い、徴収後は速やかに同窓会費支払者名簿を作成する。
 - 会計は、会計年度終了時に速やかに決算報告書を作成し、監査を受ける。
 - 本細則の改正は、同窓会総会で行う。
- 附 則 この細則は、平成16年4月1日から施行する。
- 附 則 この改正は、平成20年4月1日から施行する。
- 附 則 この改正は、平成25年4月1日から施行する。

平成26年度熊本大学医学部保健学科同窓会役員

- 名誉会長：吉永一也（熊本大学大学院保健学教育部長 熊本大学医学部保健学科長）
- 会 長：橋田昌弘（熊本大学医学部附属病院 医療技術部）
- 副 会 長：肥合康弘（熊本大学医学部保健学科）
春田昭一（済生会熊本病院）
- 理 事：
- （看護） 田中シゲ子（旧医療技術短期大学部教員）
本 尚美（熊本大学医学部附属病院 看護部）
田中紀美子（九州看護福祉大学）
小藺真知子（熊本保健科学大学 言語聴覚学専攻）
大澤早苗（熊本保健科学大学）
宮里邦子（九州看護福祉大学）
- （放射） 荒木不次男（熊本保健学科）
和田博文（済生会熊本病院）
大野 剛（熊本保健学科）
- （検査） 増永純夫（熊本中央病院検査科・病理研究科）
前田 浩（熊本市市民病院中央検査部）
中村直子（熊本大学生命資源研究・支援センター）
- 幹 事：
- （看護） 井村昭寛（熊本整形外科病院）
島田久仁子（熊本保健学科）
- （放射） 辻田直子（熊本保健学科）
- （検査） 田崎雅義（熊本保健学科）
高島裕子（元熊本大学医学部附属病院 医療技術部）
- 会 計：松本佳代（熊本保健学科）
吉田佳代（熊本保健学科）
- 監 事：熊谷エツ子（元熊本保健学科教員）
右田香魚子（元熊本大学医学部附属病院 看護部）

編集後記

“1年に1度、学生に戻ってみませんか？”

日々の生活に追われ、学生時代を思い出す機会は、少ないのではないのでしょうか。テレビをつけると、紛争、殺人や環境問題など、明るいニュースよりも暗いニュースの方が多く、気持ち晴れない今日この頃です。

私たちは、そのような皆様に、1年に1度、母校に帰ってきてもらい、楽しかった学生生活を思い出して頂きたく、毎年、保健学科同窓会を企画しております。今年は、7月5日に、第11回熊本大学医学部保健学科同窓会を開催しました。

今年の特別講演は、熊本大学パルスパワー科学研究所の秋山秀典教授に御講演いただき、他分野の私どもにもわかりやすく、パルスパワーの社会への貢献について、お話しいただき、大変感銘を受けました。また、懇親会では、懐かしい顔ぶれと学生時代のことや近況の話で、時間を忘れ、盛り上がりました。また、諸先輩方、後輩や学生と新たに交流を深めることができました。

来年の同窓会総会、懇親会は例年通り、7月第1土曜日に開催致します。みなさんお誘い合わせの上、ご臨席賜りますよう、宜しく願い申し上げます。新旧様々な皆様の元気な笑顔にお目にかかれることを楽しみに致しております。懐かしの恩師、共に学んだ友や、好きだったあの子に会えるかもしれません。

（保健学科同窓会役員：井村昭寛、島田久仁子、田崎雅義、辻田直子）



看護職員募集

熊本大学医学部附属病院看護部

熊本大学医学部保健学科同窓生の皆様へ
“私たちと一緒に働きましょう”

私たちの病院は、看護職員一人ひとりが専門職としての能力向上につながるキャリア開発支援と活き活き働き続けられる職場づくりを目指しています。

病院も再開発が進み新しくなりました。学生時代に学んだ熊本大病院で看護をしてみませんか。
詳細はホームページをご覧ください。

